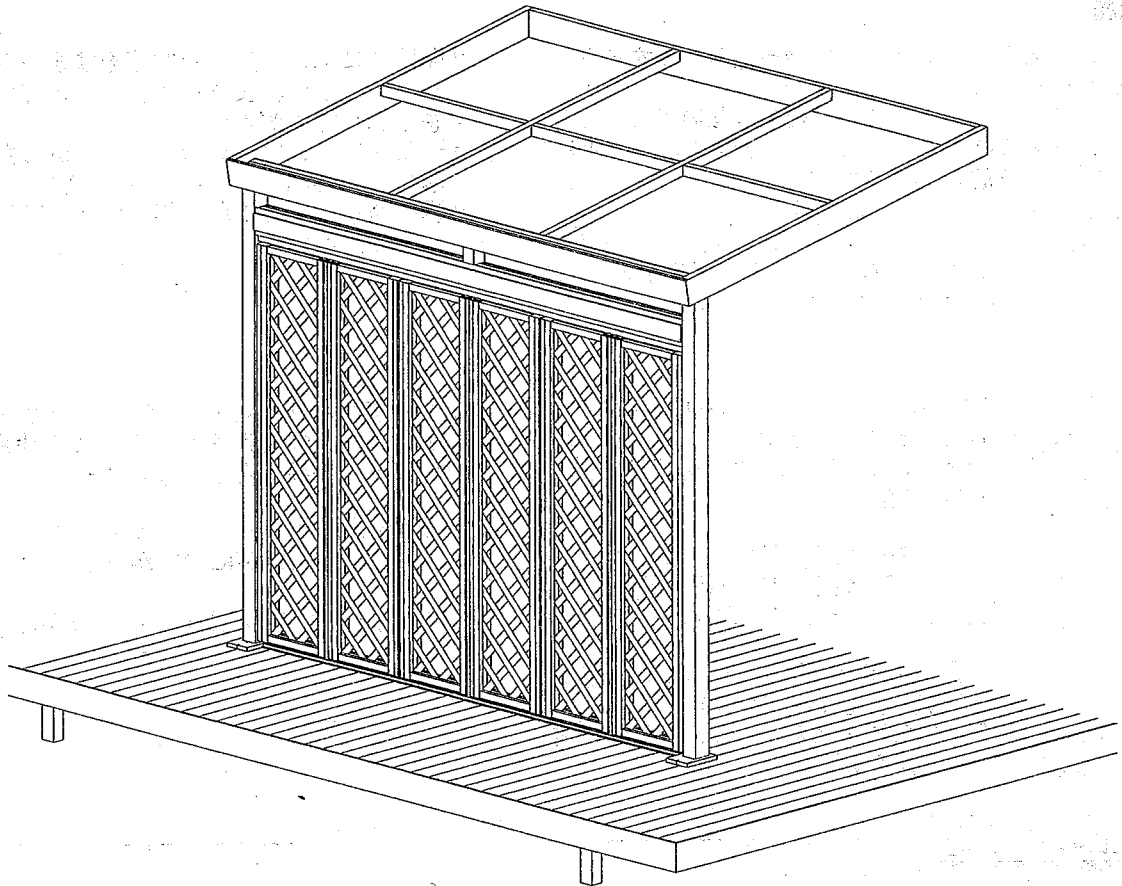


# 木樹脂可動トレリス 組立施工マニュアル





## 目次

● 工事店様へのお願い . . . . .	P	1
● 規格寸法図 . . . . .	P	2
● 各部の名称・必要工具 . . . . .	P	3
● 規格表 . . . . .	P	4
● テラス柱の穴明け、梁固定金物の取付け . . . . .	P	5
● 梁材の組立 . . . . .	P	6
● テラス前枠への部品取付け . . . . .	P	7
● 梁材の取付け . . . . .	P8 ~ 9	
● 梁中間吊束の取付け . . . . .	P10 ~ 11	
● 上下レールの取付け . . . . .	P	12
● 可動トレリスのつり込み . . . . .	P	13
● 上レールの取付け . . . . .	P	14

この度は、新日軽の製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。  
正しい施工をしていただく為このマニュアルをお読みください。

## 安全にお使いいただくために必ずお守りください。

このマニュアルに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を示しています。人身事故や財産への損害を未然に防止するため、次のような絵表示をしています。

絵表示	意味	絵表示	ご使用上の注意とお願い
 <b>注意</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると使用者が負傷する危険や物的損害の発生することを表しています。		「必ず行なっていたくこと」を示しています。

### 注意

- 可動トリス本体、上部梁材に乗ったり、揺すったり、寄りかかったりしないでください。
- 可動トリスをみだりに改造・変更しないでください。
- 可動トリスに鉢等をかけないでください。可動時にふりとばされる危険があります。
- 可動トリスは、むやみに取り外ししないでください。ケガや故障の原因となります。万一可動トリスが下レールより外れた場合のみ、「お施主様用手引き」をご参照の上、扉を入れ直してください。
- 樹脂は弱酸、弱アルカリ、食塩水、アルコール（水でうすめたもの）には優れた抵抗性を持っていますが、濃酸、濃アルカリ、又シンナー、ベンジン等の有機溶剤や石油類は、使用しないでください。
- 可動トリスの近くで殺虫剤、除草剤は使用しないでください。スプレータイプで石油系、フロン系の場合、接触すると変形、割れを生じることがあります。
- 木樹脂は、微小火源では着火しにくくなっていますが、火気には十分にご注意ください。又、70℃以上になると変形しますので、近くで焚火をしたり高温のものを近付けたりしないでください。
- 開閉時には、手足、衣服等を挟まれないように注意してください。また、人、物等の障害物が無いことを確認してください。
- 通常使用されない場合は、扉を閉じた状態にて必ず落し棒、つき上げ棒をしてください。
- 扉の開閉は、必ず落し棒、つき上げ棒を解除して行ってください。
- 表面が汚れた時は水洗いしてください。洗剤を使用する際は中性洗剤を水でうすめて使用し、よく水で洗い流して拭きとってください。
- 開閉操作はゆっくり行ってください。急激な操作は思わぬ事故やけがにつながります。
- 年に1回、ネジやボルトのゆるみがないか確認してください。

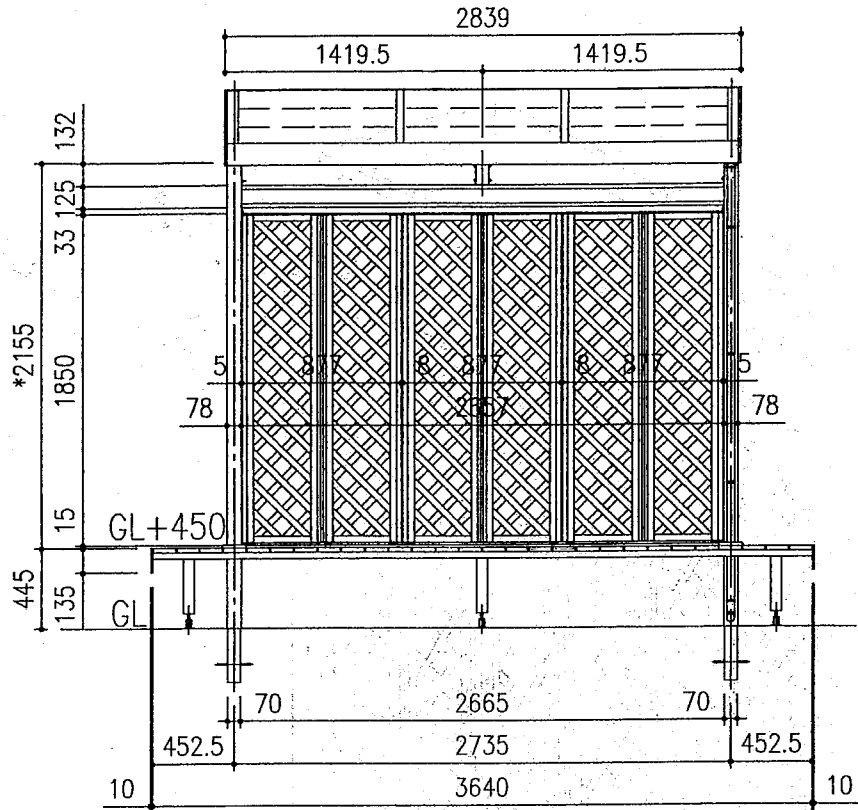
### 施工上のご注意

新日軽のアルミ製品はJISの表面処理規定を十分クリアした製品をお届けしていますが、取扱によっては異常腐食を起こし思わぬトラブルとなりますので、施工にあたっては次のような点を注意してください。

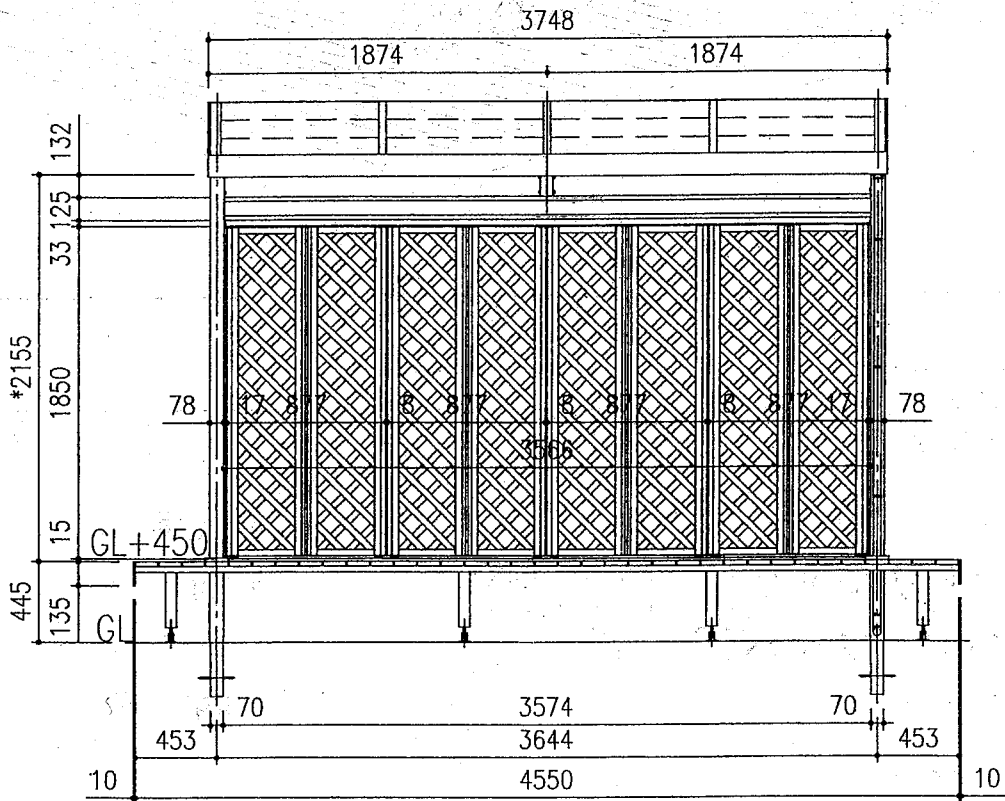
- モルタル用に海砂を使用されますと、塩分が多量に含まれていますから腐食の原因になりますので、その使用を避けていただくか、十分水洗いしたものを使用してください。
- モルタルやコンクリートの抽出液は強アルカリ性で、しみやむら等の外観不良や腐食の原因になりますので工事中に商品の表面に流れないように注意してください。
- モルタルやコンクリートの急結剤は腐食の発生や促進作用がありますのでその使用を避けていただくか、塩化カルシウムや塩素系の化合物・硅酸ナトリウム等の入っていないものを使用してください。
- 施工時に商品の表面に付着したモルタルやコンクリート等は速やかに清掃してください。また、アルミ表面にキズをつけますと腐食しやすくなりますので取扱いには十分注意してください。
- アルミ製品と異種金属が接触しないようにしてください。接触する場合にはビニールテープ等を貼るか塗料等で絶縁処理をしてください。
- 腐食の恐れのある接着剤や化学薬品を施工上使用する場合は、アルミ製品と接触しないようにしていただくか、接触する部分を完全に養生してください。
- 輸入木材には塩素イオン等の腐食成分が多く含まれているものがありますので、その使用を避けていただくか、アルミと接触する部分には木材に塗装するようにしてください。
- 柱内部にモルタルやコンクリートが入らないように施工時に注意してください。
- 基礎施工の際は地下の埋設物にご注意ください。また寒冷地はその地域にあった基礎工事をしてください。
- 地盤が軟弱な場合は、柱の埋め込み深さ、フーチングの大きさを考慮してください。

\*汚れ、ホコリが付着した場合には、軽く水で流すかテープ等の接着面で軽くたたくようにしてください。

規格寸法図



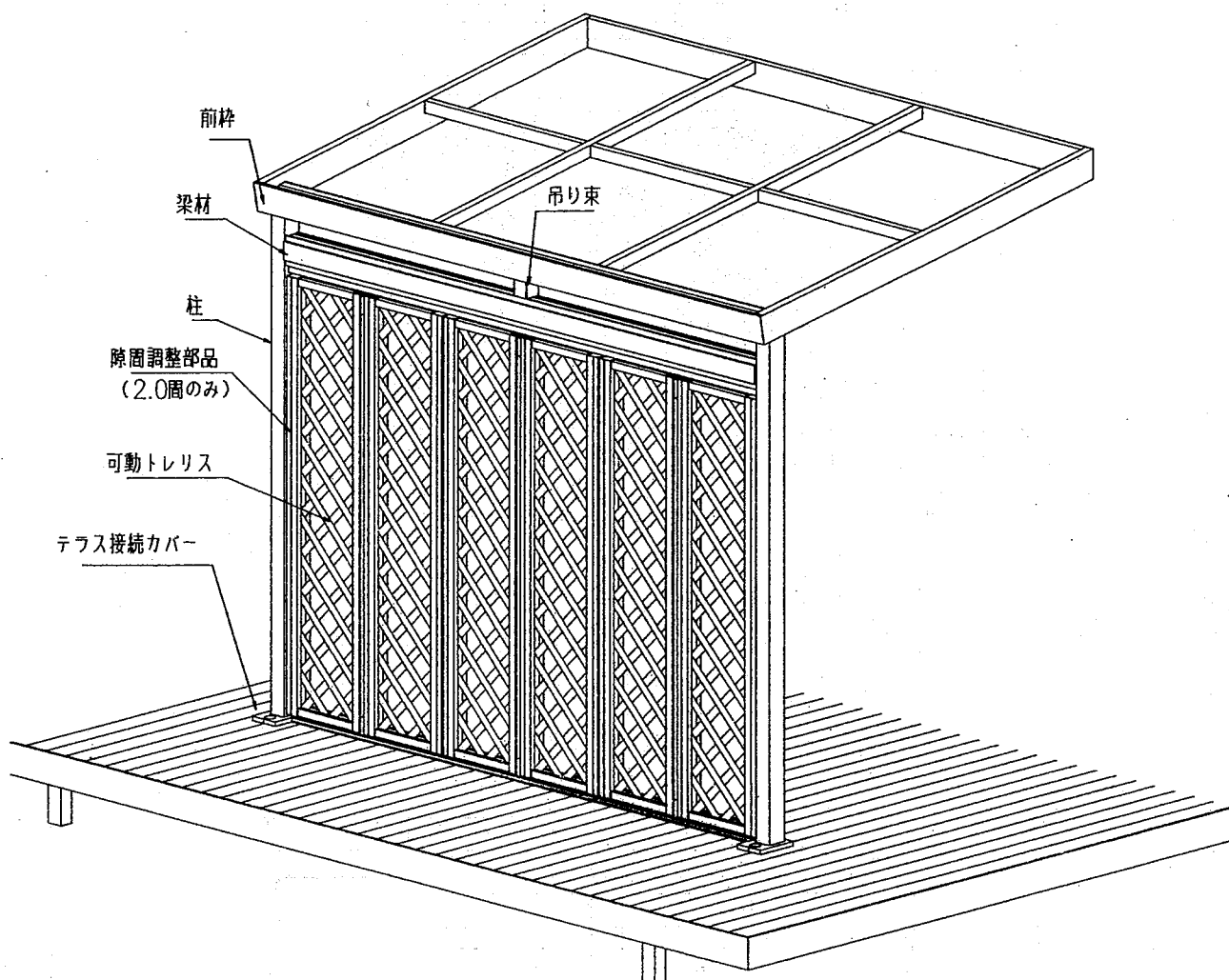
間口1.5間




間口2.0間

注) 可動トレリスを取付けるにあたり、デッキ面からテラス前枠(補強桁)下端までの寸法(\*)は2108mm以上必要です。取付前に御確認ください。

## 各部の名称



## 必要工具

- (+) ドライバー
- $\phi 13$ ドリルキリ 
- スパナ (サイズ10と13)
- スケール
- ドリル
- 電動ドライバー
- 金属用ノコギリ
- 水準器
- 脚立
- ヤスリ
- 曲尺

# 規格表 (内容明細)

## ■ 可動トレリス

略 図	数 量
	1

## ■ 梁・上下レール

1.5間用				2.0間用			
部品名	略 図	数量		部品名	略 図	数量	
梁 材		1		梁 材		1	
上レール		2		上レール		2	
下レール		1		下レール		1	
吊り束		1		吊り束		1	
セ	梁固定金物		8	セ	梁固定金具		8
	六角ボルト M6×30		16		六角ボルト M6×30		16
	M6用 スプリングワッシャー		16		M6用 スプリングワッシャー		16
	M6用 ワッシャー		16		M6用 ワッシャー		16
	ターナット (M6用)		16		ターナット (M6用)		16
ッ	φ5×19ナベセルフ ドリリングスクリュー		12	ッ	φ5×19ナベセルフ ドリリングスクリュー		12
ト	M8用ナット		2	ト	M8用ナット		2
部	M8用 スプリングワッシャー		2	部	M8用 スプリングワッシャー		2
品	M8用 ワッシャー		2	品	M8用 ワッシャー		2
	四角ボルト		2		四角ボルト		2
	φ4×25皿セルフ ドリリングスクリュー		9		φ4×25皿セルフ ドリリングスクリュー		12
	φ4×50ナベセルフ ドリリングスクリュー		8		φ4×25ナベセルフ ドリリングスクリュー		10
	ス パ ナ		1		ス パ ナ		1
	組立施工マニュアル お施主様用手引き		各1		組立施工マニュアル お施主様用手引き		各1

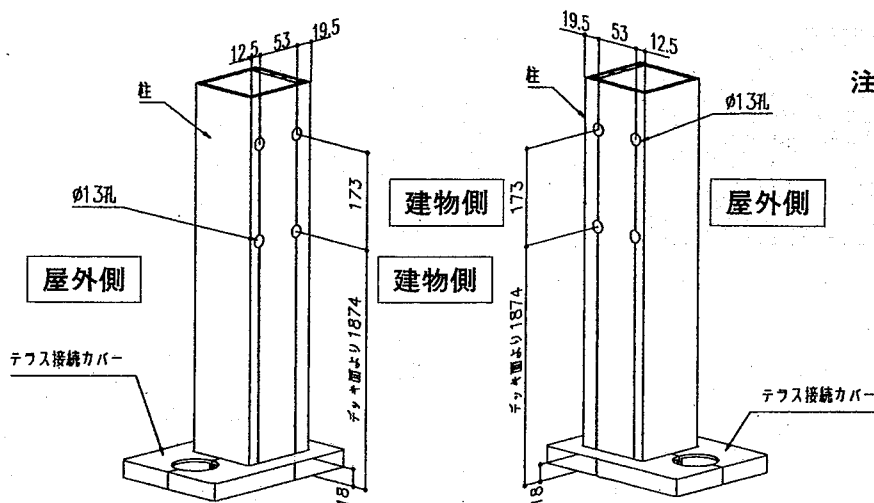
## ■ 開口2間用隙間調整部材

部品名	略 図	数量
隙間調整部材		2
セ ッ ト 部 品	φ4×19ナベセルフ ドリリングスクリュー	10
	穴塞ギシール	10

# 〈施工順序〉

## 1. テラス柱の孔明け

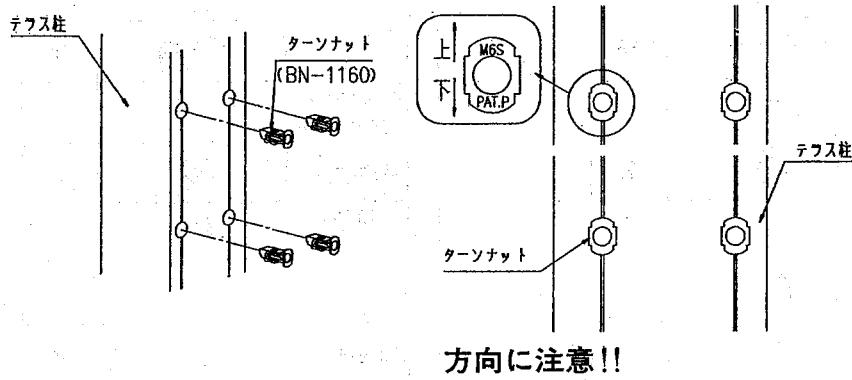
下図に従って柱の可動トレリスが取付く側にφ13ドリルキリで孔を明けて下さい。  
木樹脂テラス柱カバーには、穴あけ用のガイドラインが入っております。(縦方向)



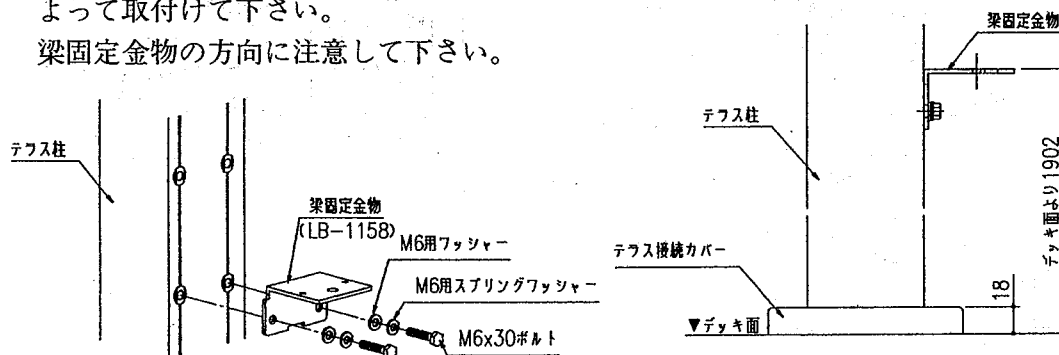
注) テラス柱に穴を明ける際  
φ6の下穴を明けて下さい。  
また、木樹脂カバーが  
割れないように穴を明けて  
下さい。

## 2. テラス柱への梁固定金物の取付け

① 1の作業によって明けた孔にターンナットを入れて下さい。  
ターンナットは、縦向きに回転する様にして下さい。



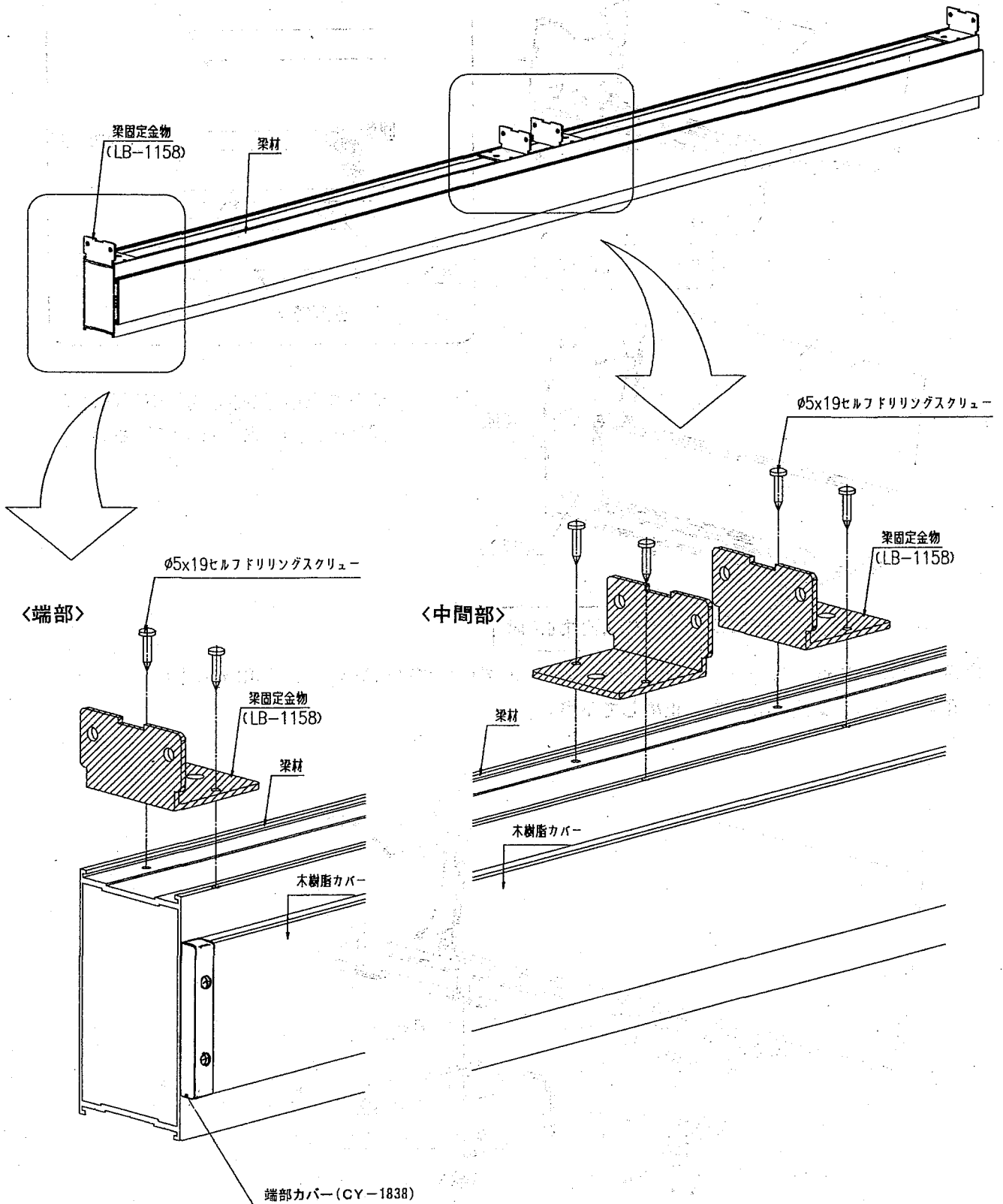
② 下部のみ梁固定金物をM6×30ボルトとM6用スプリングワッシャー・ワッシャーに  
よって取付けて下さい。  
梁固定金物の方向に注意して下さい。



\*注) 梁固定金物の上部をデッキ面より指定の高さに調整後、ボルトを締めつけて下さい。

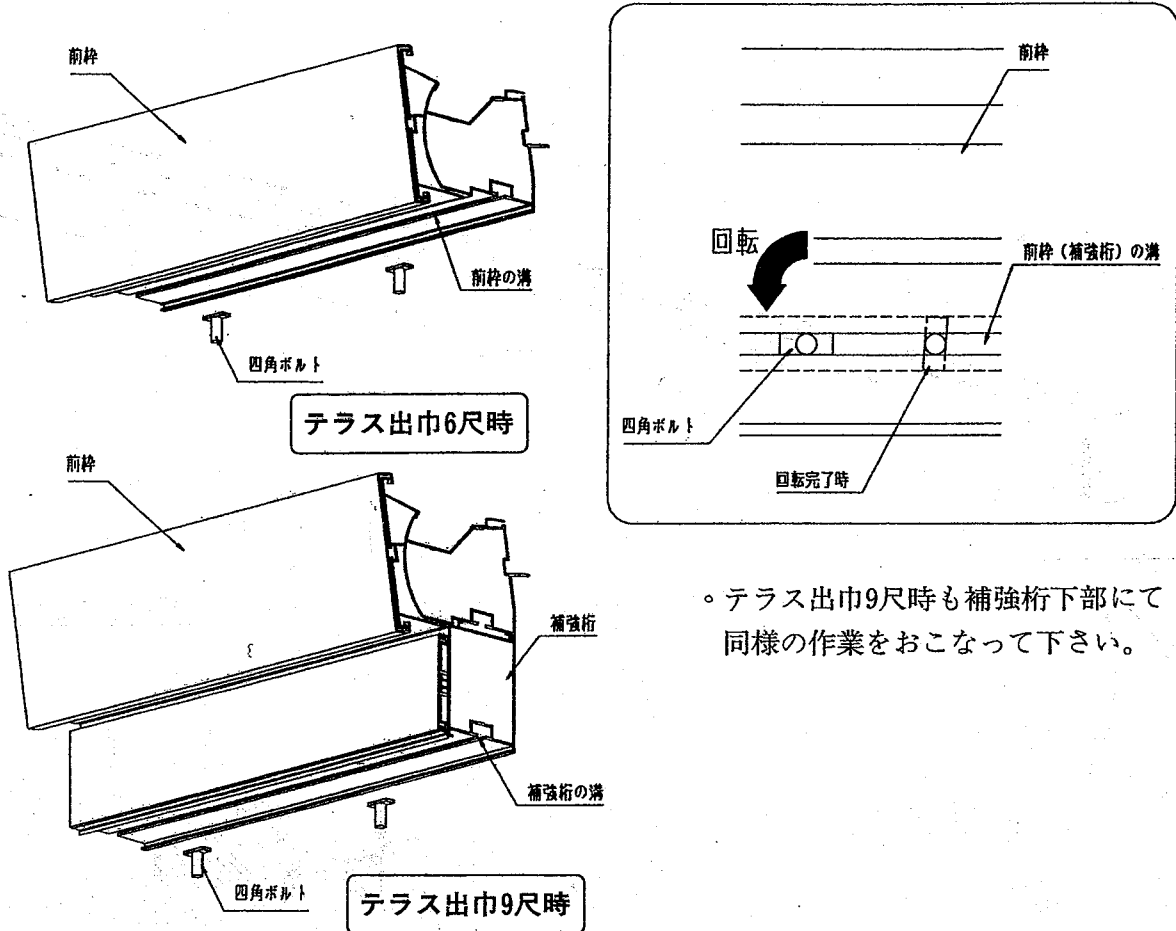
### 3. 梁材の組立て

梁固定金物を $\phi 5 \times 19$ セルフドリリングスクリューで取付けて下さい。梁固定金物の方向に注意して下さい。また、梁材には上下がありますので梁固定金物が必ず上部にくるように取付けて下さい。



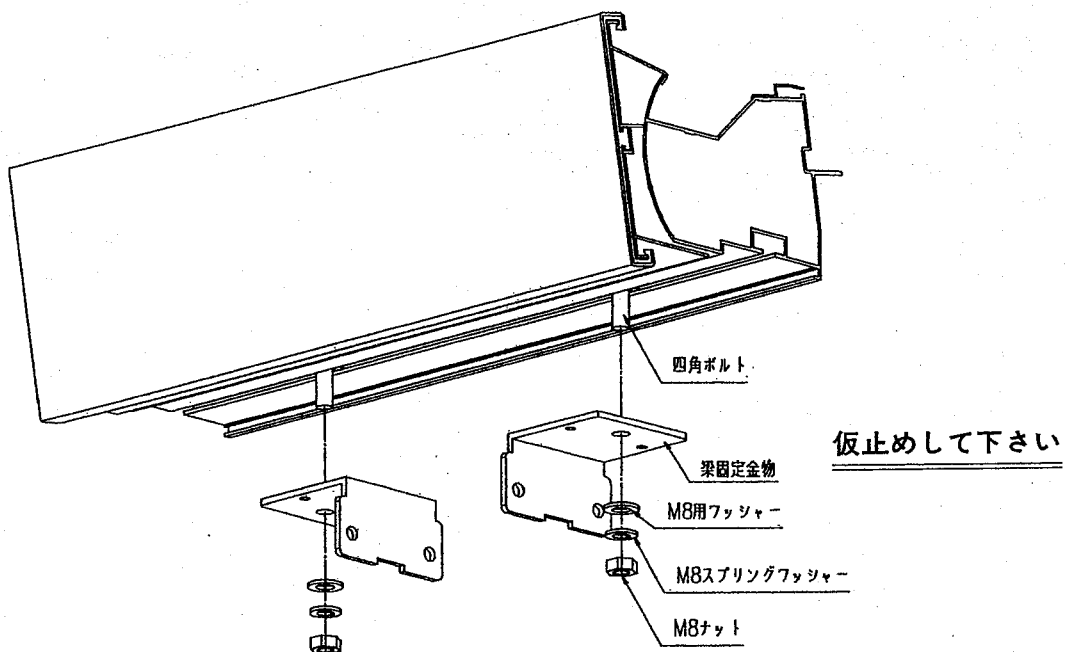
## 4. テラス前枠への部品取付(梁中間吊り束用)

- ①テラス出巾6尺用は前枠下部の溝に、テラス出巾9尺用は補強桁下部の溝に四角ボルトを挿入してボルトが回らなくなるまで回転させて下さい。



- ・テラス出巾9尺時も補強桁下部にて同様の作業をおこなって下さい。

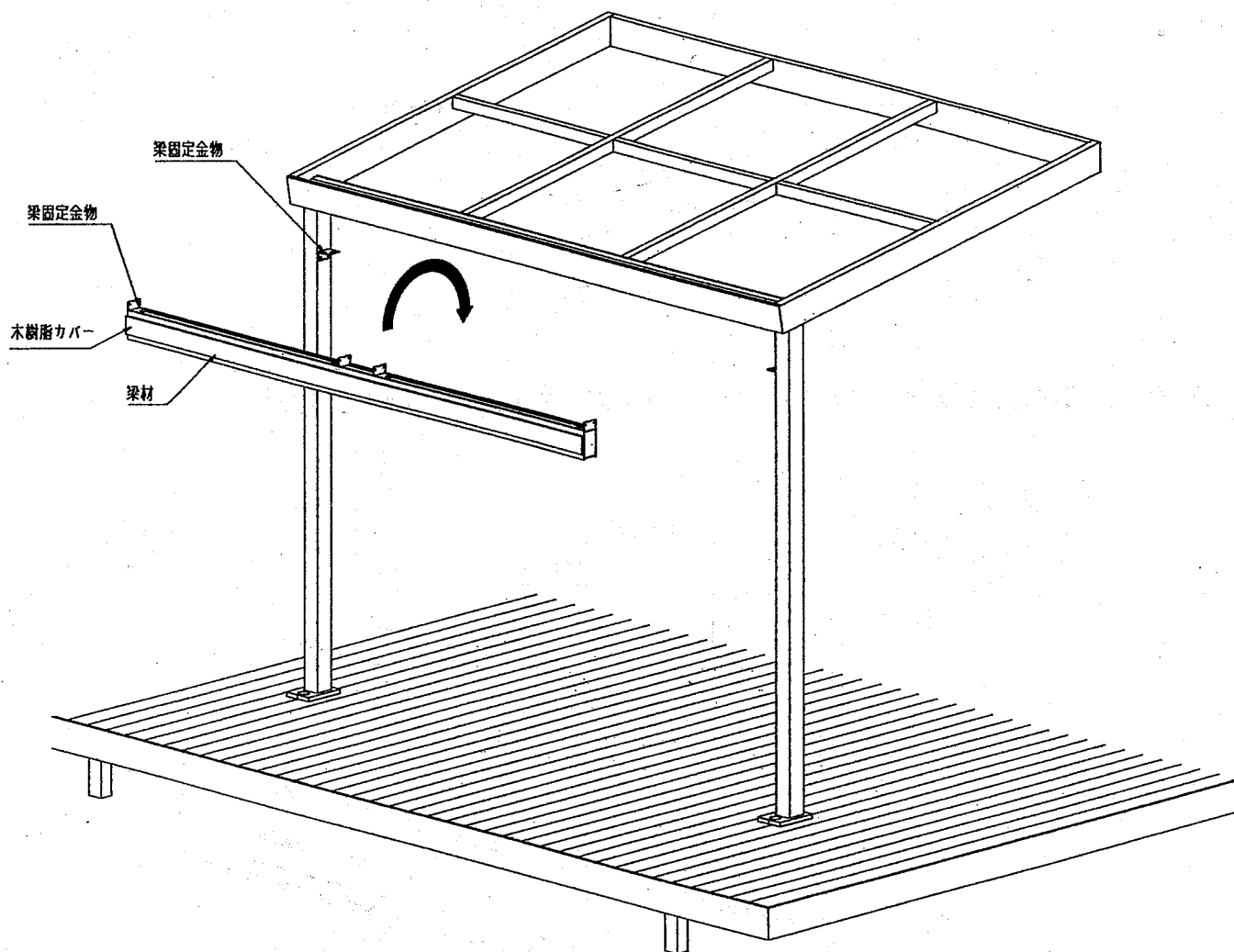
- ②四角ボルトに梁固定金物・M8用ワッシャー・スプリングワッシャー・M8用ナットの順に挿入し、梁固定金物を仮止めして下さい。



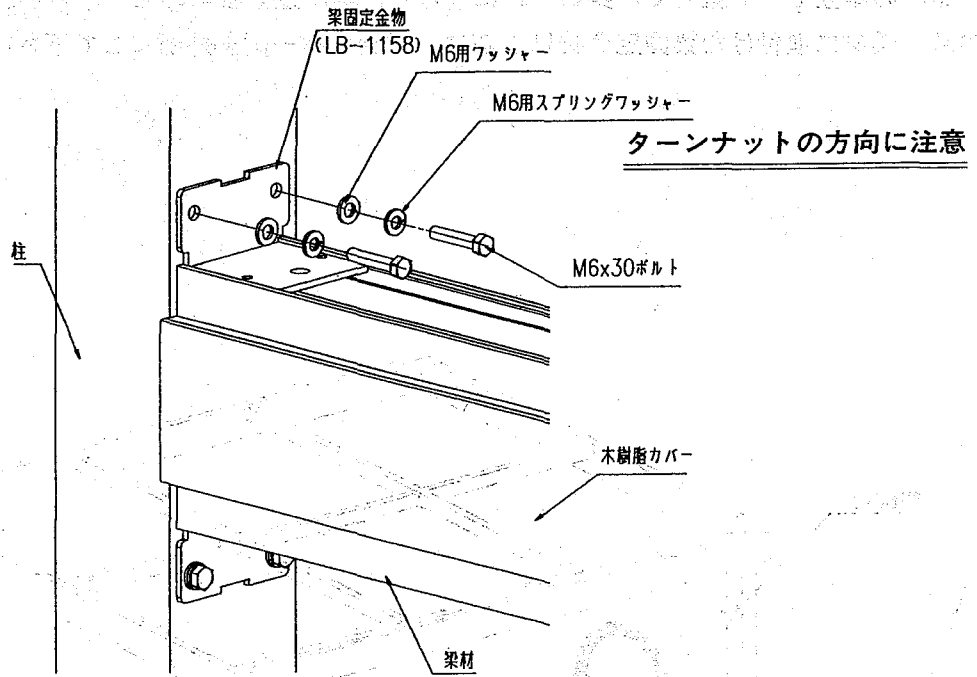


## 5. 梁材の取付け

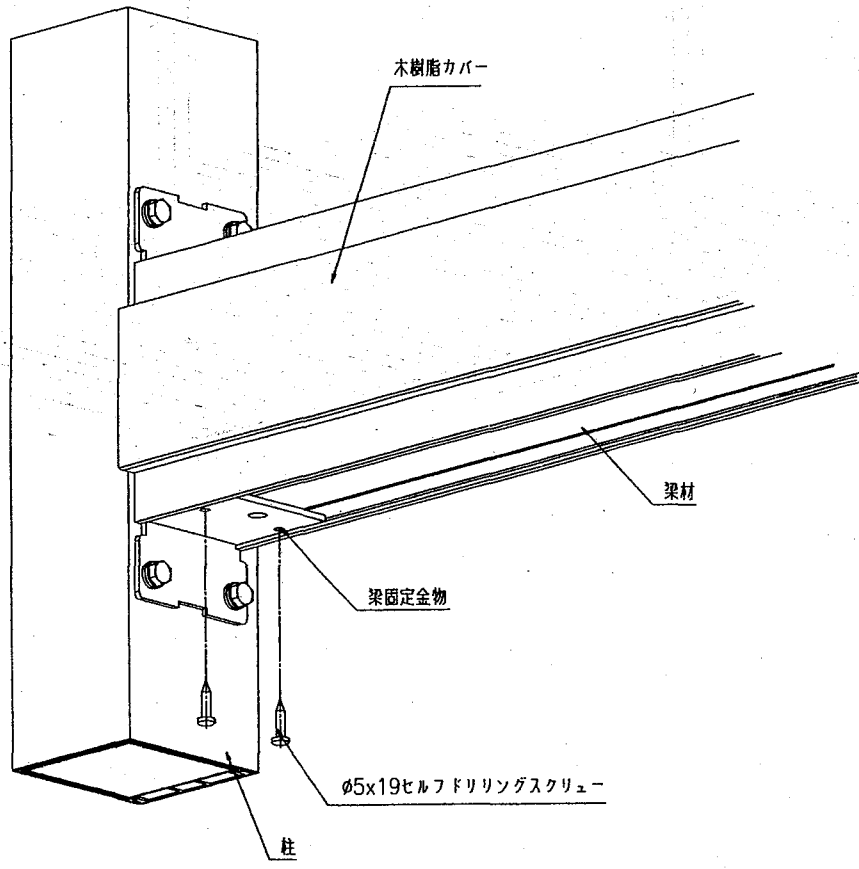
- ① 3 「梁材の組立て」で組立てた梁材を柱に取付けた梁固定金物にのせて下さい。  
この時、梁材に取付けた梁固定金物は上部に、樹脂カバー面を外部にして下さい。



- ② 梁材両端部の梁固定金物を、M6×30ボルトとM6用ワッシャー・スプリングワッシャーによって柱に取付けて下さい。  
 この時、柱に入れたターンナットの方向を確認して下さい。

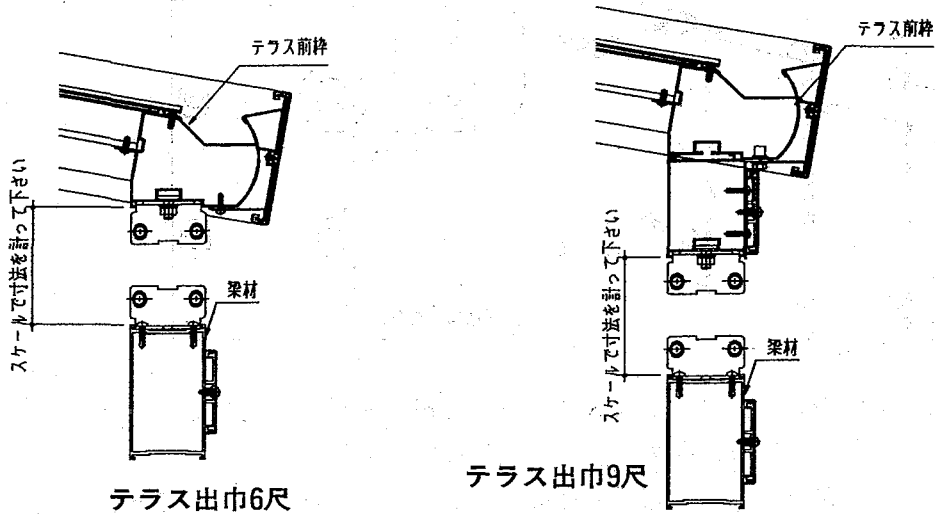


- ③ 下部の梁固定金物と梁材をφ5×19セルフドリリングスクリューで固定して下さい。



## 6. 梁中間吊り束の取付け

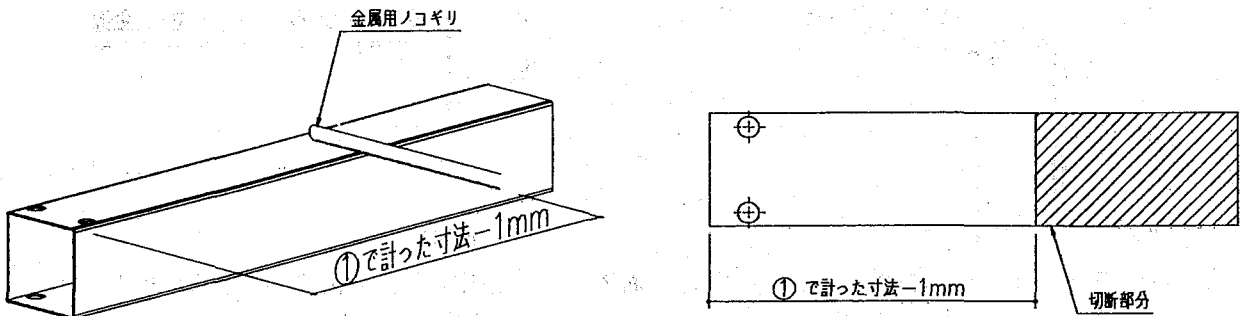
①テラス前枠下部(出巾9尺は補強桁下部)から梁材上部までの寸法をスケールで計って下さい。



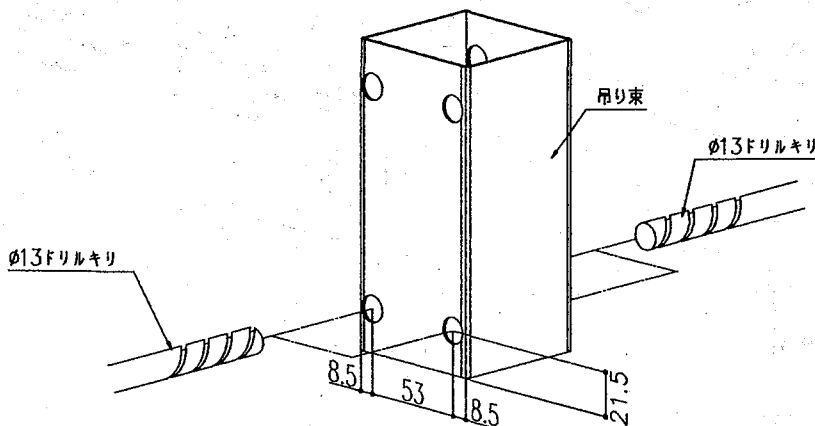
テラス出巾6尺

テラス出巾9尺

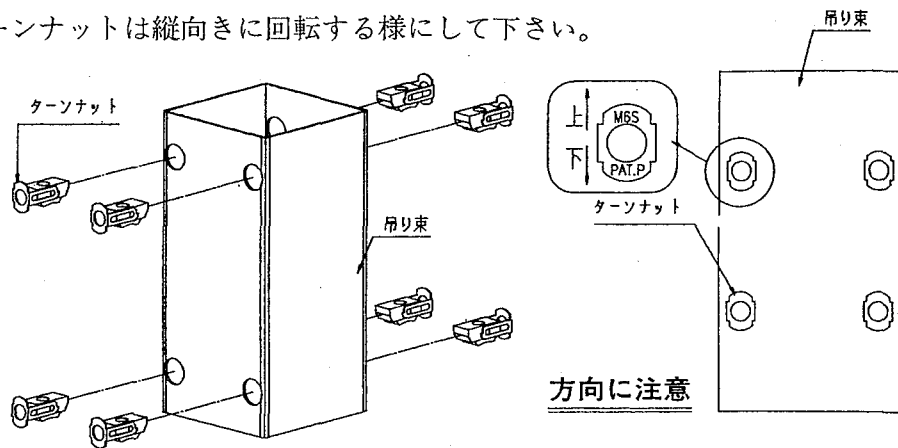
②①で計った寸法から-1mmの寸法で吊り束を金属用ノコギリで切して下さい。  
この時、孔加工の有る端部を基準として下さい。



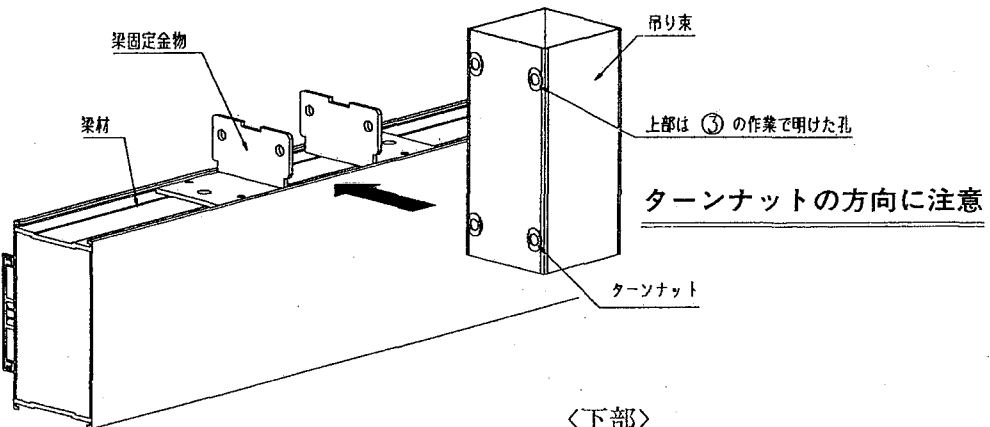
③下図に従って、吊り束の切断した側に $\phi 13$ ドリルキリで4ヶ所孔明けして下さい。



- ④吊り束の孔全て（8ヶ所）にターンナットを挿入して下さい。  
 ターンナットは縦向きに回転する様にして下さい。

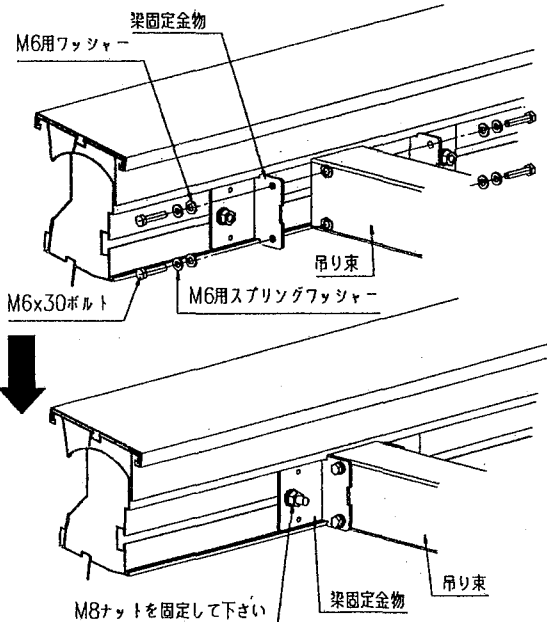


- ⑤梁材の中間部の梁固定金物の間に、吊り束を内側から滑らす様に挿入して下さい。  
 吊り束の孔は、③の作業で明けた孔を上側にし側面に向けて下さい。  
 挿入しにくい場合は、吊り束が変形しない様に注意しながらたたいて入れて下さい。



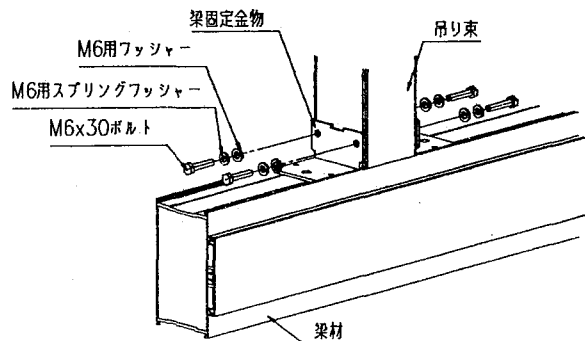
⑥ <上部>

前枠（テラス出巾9尺は補強桁）に仮止めしてある梁固定金物をM6ボルトとM6用ワッシャー・スプリングワッシャーで吊り束に固定して下さい。  
 固定後、仮止めしてあるM8ナットを固定して下さい。



<下部>

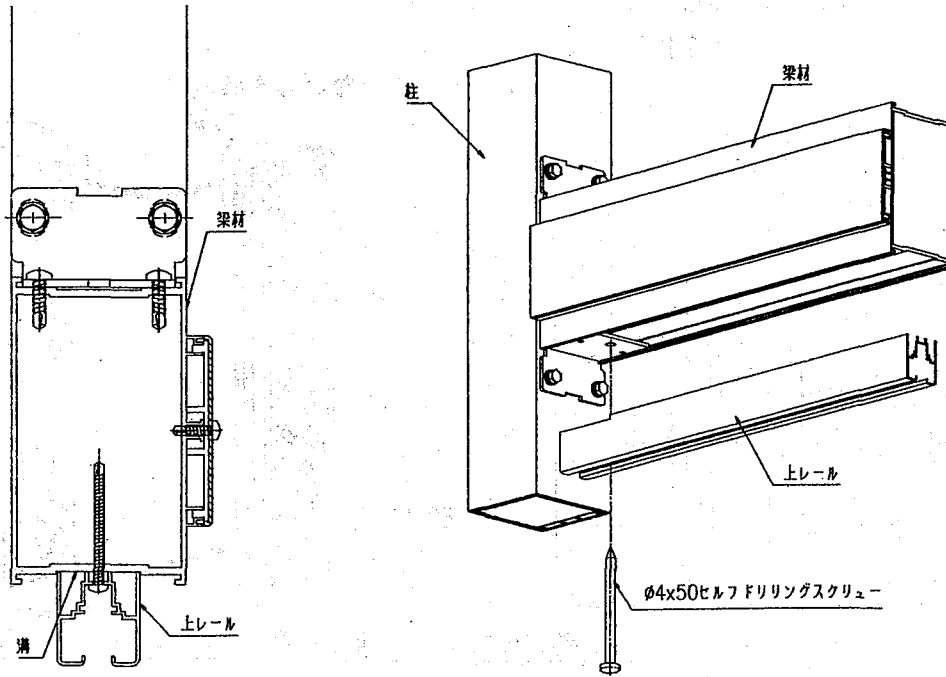
梁固定金物と吊り束をM6ボルトとM6用ワッシャー・スプリングワッシャーで固定して下さい。



## 7. 上レールの取付け

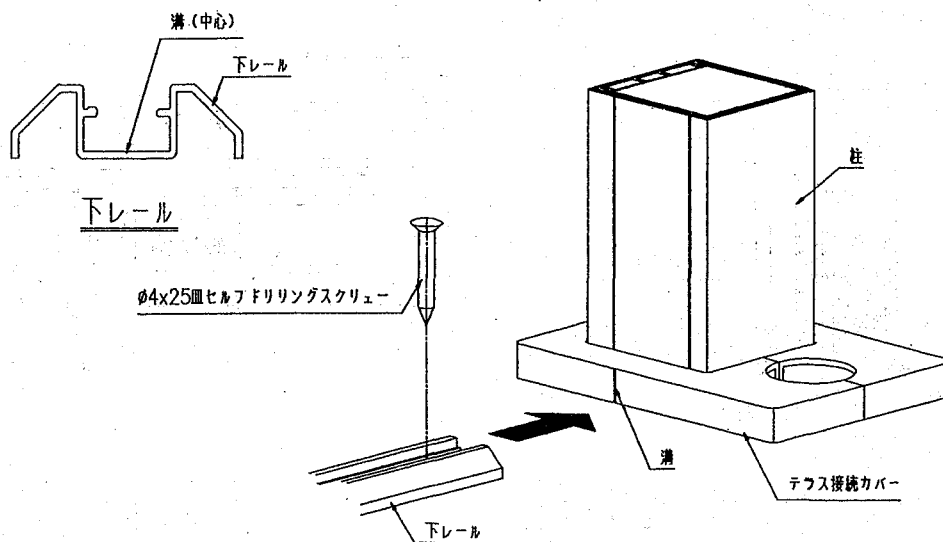
上レールを梁材の溝に合わせて $\phi 4 \times 50$ セルフドリリングスクリューで片方のみ固定して下さい。  
レールは、切欠き加工の有る方が柱側になります。

もう一方は、可動トレリス挿入後取付けますが2本の上レールが取付可能か確認の上固定して下さい。



## 8. 下レールの取付け

テラス接続カバーの溝と、下レールの溝に合わせて $\phi 4 \times 25$ 皿セルフドリリングスクリューで固定して下さい。

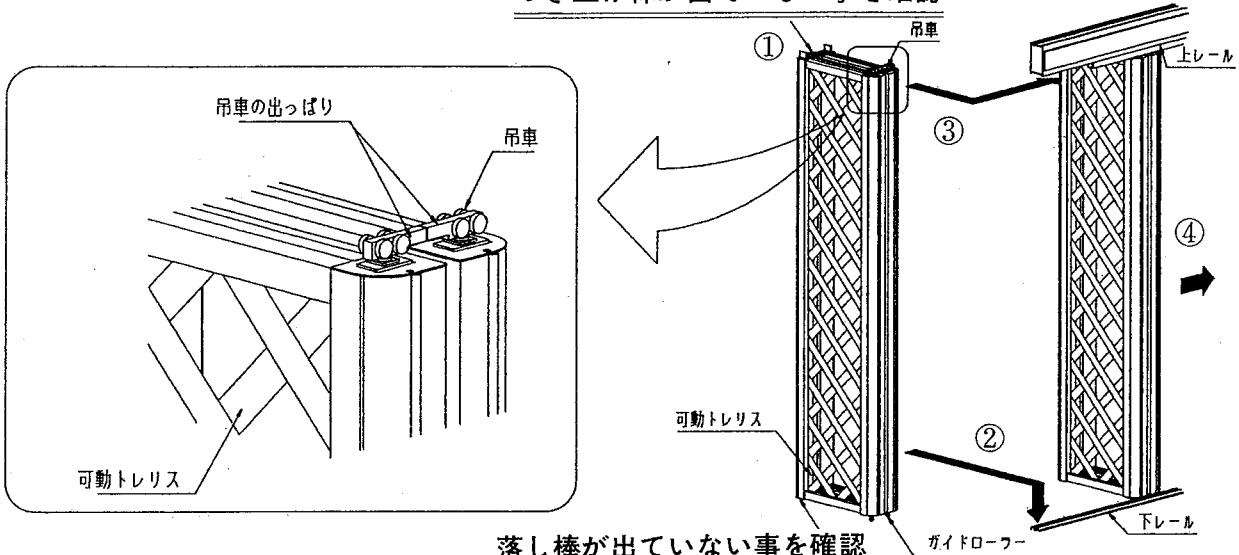


注) 下レールには、水抜き用の穴が明いています。  
皿加工された穴にスクリューを打ち込み、  
水抜き穴はそのままの状態にしておいて下さい。

## 9. 可動トレリスのつり込み

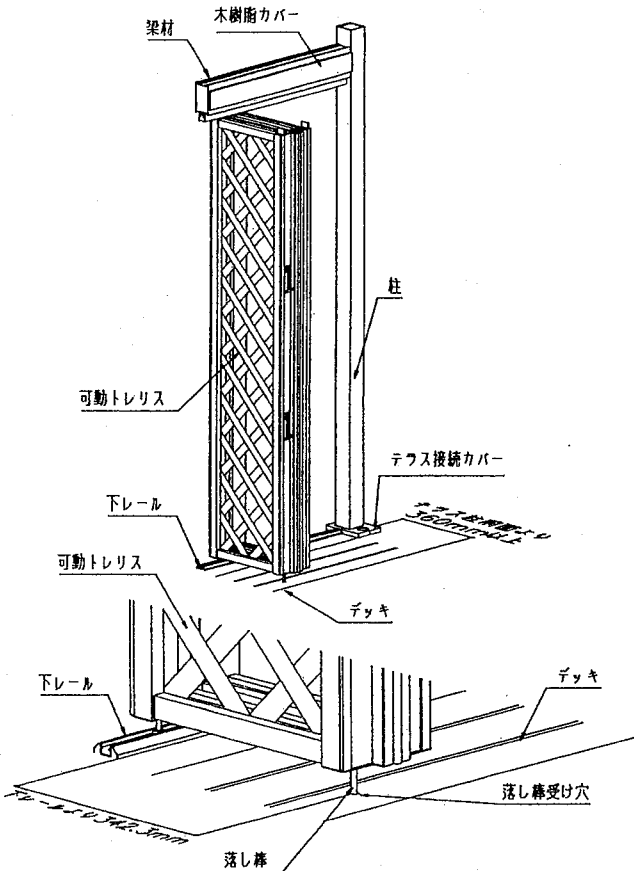
- ①可動トレリスを閉じた状態にして下さい。この時、つき上げ棒及び落とし棒が出ていない事を確認して下さい。
- ②可動トレリス下部のガイドローラーを下レールに入れて下さい。
- ③可動トレリスを少し持ち上げて吊車を上レールに入れて下さい。  
この時、吊車の出っぱりが内側にくるようにして下さい。(下図参照)
- ④必要枚数挿入し、全ての可動トレリスを柱側によせて下さい。

つき上げ棒が出ていない事を確認

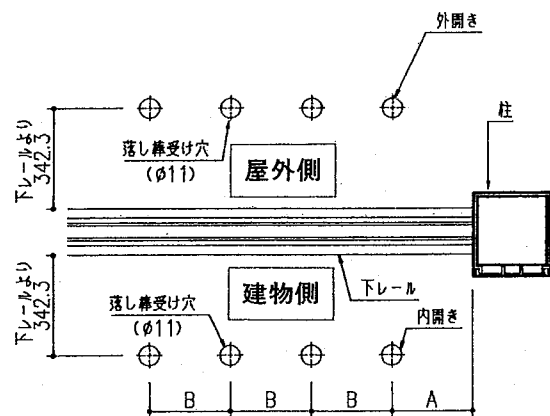


落とし棒が出ていない事を確認

注) 可動トレリスはテラス内側につき出る内開き(上図)、テラス外側につき出る外開き(下図)の両方が可能ですが、外開きの場合落とし棒及びつき上げ棒は外側からの操作となります。また、扉を開いた状態で落とし棒用の受け穴(必ずしも必要ではありません)をデッキに開けたい場合は下図を参考に落とし棒受け穴を加工してください。落とし棒を受ける為の穴の施工が可能なデッキ出巾は360mm以上が必要です。



内開き、外開きのそれぞれにおけるデッキ上の  
落とし棒受け穴寸法は下表を参照して下さい。

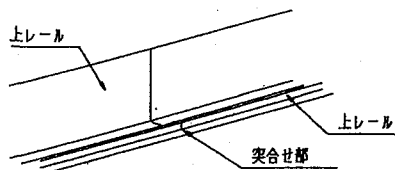


サイズ	A	B
1.5間	132.5	166
2.0間	144.5	166

可動トレリスをたたくで固定したい時はデッキに  
上図を参照して落とし棒受け穴を加工して下さい。

## 10. 上レールの取付け

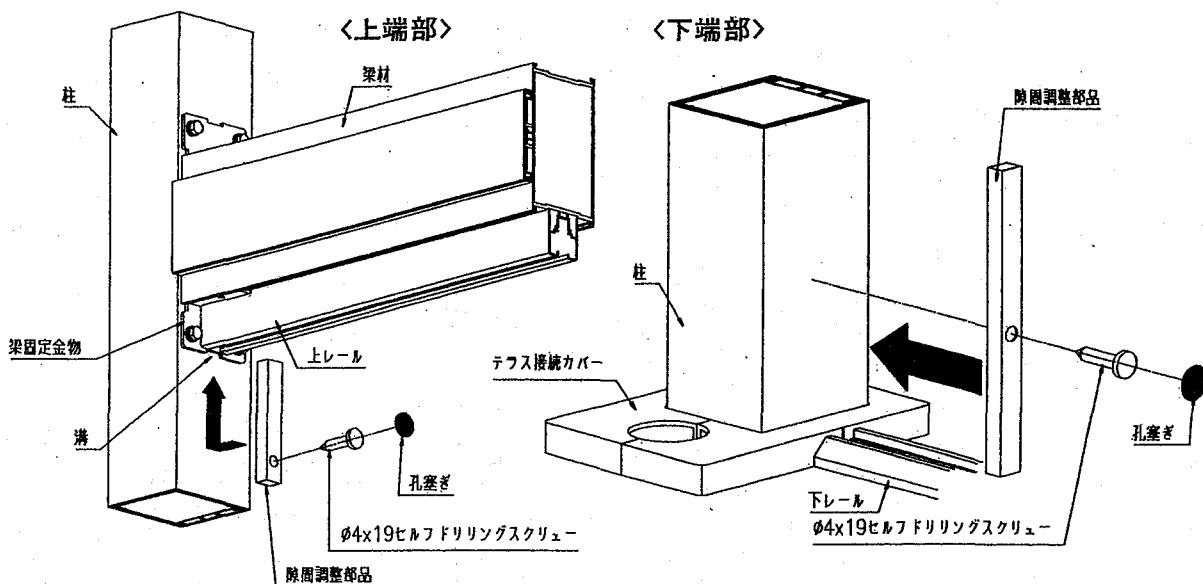
7「レールの取付け」に従ってもう一方の上レールを取付けて下さい。  
その時、先に付けたレールとレール突合せ部分の面を揃えて下さい。



前後、上下の面を揃えて下さい

## 11. 隙間調整部品の取付け (開口2.0間の時のみ取付可能です)

上端部を梁固定金物の溝に下レールの中心に合わせて $\phi 4 \times 19$ セルフドリリングスクリーで取付けて下さい。取付後、孔塞ぎで孔を塞いで下さい。



## 工事店様へのお願い

以上で取付けは完了ですが、同封されております「可動トレリスのお施主様手引き」を一通り確認して下さい。

作動方法・使用上の注意等を御説明していただき、「お施主様手引き」をお客様にお渡し下さい。